

「神の似姿へ」 ～あなたの本当の人格とは～

創1：26～28

(創1：26～28) 神様が私たち人々を作った時に仰せられた言葉です。「神は仰せられた『さあ、人を造ろう。われわれのかたちとして。われわれに似せてそして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう』」(創1：26) 神様の意気込みを感じます。人以外「さあ」と神様がいつているものはありません。そして人だけが「われわれのかたちに似るもの」として作られました。「仮面」のことをラテン語で「ペルソナ」と言います。本来この言葉は「位格」と言う意味がありこれは「三位一体」(父・子・聖霊)のことを言います。しかし現代ではペルソナは「仮面」ということばになってしまいました。「神」の原語は単数形ですが、「われわれに似るように・・・」と複数になっていて、この「われわれ」が「ペルソナ」なのです。神様の存在には必ずこの「三位格」が出てきますがあくまで「位格」であって複数あるわけではないのです。これは人にはありえません。しかし神は、ロゴスとしての神、現われとしてのイエス様、霊としての聖霊の3つはすべて違います。人の成り立ちは三位一体によく似ていますが、三位一体ではありません。もし人がそうなるとしたらあなたの中に悪霊が入る以外ありません。悪霊はあなたの人格をだめにしようとします。私たちの中にも聖霊様がいて、それは自分の肉に死ぬことで現れるのです。聖霊によって生かされることによってあなたの感情や価値観などがすべて御霊によって左右されるようになるのです。しかし罪があるとそこに御霊が働くことができず、あなたの本当の姿が出てしまうのです。したいことができないのは潜在的な罪があるからです。だから日々悔い改めを通して自分を清めることが大切なのです。本来「人格」をさす言葉がなぜ「仮面」として用いられているのでしょうか。「サタンさえ光の御使いに変装するのです。」(Ⅱコリ11：14) 世の中のものは全て神の方法を真似します。悪魔は神の人格を作れなかった一人です。自分が擬似的神になりたいのです。神の使う方法を用いて人々を自分(悪魔)の姿に変えようとします。御言葉を用いてあなたを洗脳し、あたかも真実のように化けあなたに近づき、あなたの心を神がつかう方法で変えるのです。だからあなたにこの世で生きるために仮面をかぶらせます。だからペルソナが仮面ということばになってしまったのです。「われわれに似せて」これが擬似です。似るように人格を与えましたが似なかったのは1人格しか与えなかったことです。悪魔があなたに入らない限り2人格になりません。そして悪魔が入るにはそこに何らかの契約があるのです。神は人と神の前でその人に宣言させますが、悪魔も同じような方法で契約させます。その第一段階が仮面です。これは人格ではなく、人の前で弱い汚い自分を出さないために仮面をかぶるのです。仮面をかぶっていることにわかっていけばよいのですが、わかっていないことが多いのです。私たちには仮面があるかもしれませんが、それをとろうとしようとするか、それを放置して偽りの自分を作り上げていくかです。仮面をかぶっているのに忘れるのが私たち人間です。嘘をついていることも忘れて嘘であることも本当になってしまう、これが仮面です。本来のあなたの意識があるけれどもそれを表さないためにあなたが作り上げたもう一人のあなた・・・これが仮面なのです。それは神の姿ではありません。神の似姿のように繕った偽りの神の似姿です。あなたの人格とは何でしょう。人格とは「神の似姿です」と言えればよいのですがあなたは神の似姿ですといえますか。本当の人格に近づかなくてははいけません。神の人格とはイエス様の姿です。「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができずとては考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。」(ピリ2：6、7) 痛みもわかり同情できない方ではありませんが、罪を犯しませんでした。あなたの人格はイエス様でなければいけません。あなたの役割はイエス様のどの部分なのでしょう。そして悪魔にそこに仮面をかぶせられるのです。本当の役割をさせないためにです。だからできていないあなたを責めます。二重人格にしたいのは神の人格を壊すためです。だから失敗もさせますが、神様はチャンスだと言っています。仮面がはがされ、本当の自分が出るからです。どこで仮面をかぶっているかわかるのです。笑ってごまかす、本当のことを言っただけ、世間体を気にして生きる、私たちは仮面の生き方をしてきたのです。仮面をとって、本当の人格者になるために①**神の姿を知る**。見つかったら罰を与える社会ではいけません。見つかったら赦さなくてはいけないのです。本当の姿を知らないとおかしくなってしまうのです。あなたの人格はと言われたら「イエス・キリストの似姿です」と言えなくてははいけません。そのためにはイエス様の似姿を知らなくてはできません。(Ⅱコリ3：16～19) 神様に向かって聖霊様によって変えられないといけません。一人で祈れてもみんな祈れないというのはおかしいし、その逆でもありえません。神に向くためには、隣人を愛すところから始まらないといけません。神の似姿をみて近づいてください。自分がどんな仮面をかけているのか気付くところから始めてください。②**感情の自分を変える**。「進歩しなさい」といいますが、進歩とは変化です。今の自分を変えるとしてすべてそれは進歩です。山を大きくしようとしたり上を壊して地盤を大きくするしかありません。自分を壊すことから始めなければいけません。進歩するためにはマスクをとって変化させなくてはいけないのです。当たり前だと思っていることを変えることをしてください。その妨げになっているものが言い訳です。言い訳はしないようにしなくてははいけません。それはこじつけです。言い訳は嘘です。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」(ローマ12：2) あなたが今、こうだと思っているものを壊してやってみて本当なのか確かめてください。神様が壊せと言うのは次があるからです。準備しましょう。③**変えてはならない「愛」**。自分を愛すること、隣人を愛すること、神を愛することを変えてはいけません。私たちが神を愛するのは、神があなたを愛していることを知るからです。私たちはギブ&テイクでしか愛せません。だからあなたが神に愛される存在であるということを知らなくてははいけません。だからまず自分を愛することから始めてください。悪魔は仮面をつけさせるために、最初に「おまえはだめだ」と言ってやってきます。私たちが本当の汚さを知ると、自分を隠してしまいます。愛することをしてください。あなたを愛さないということは作った神を愛さないということです。あなたには自分を評価する権限はありません。だから自分がやれなかったことを後悔するのではなく、イエス様がどういうふうに行ったのか考えてください。これが神に似ていくということで、そのことを努力してください。愛するとは神の似姿を見るということです。仮面をとった自分をだめだと思わないで下さい。「自分は汚れているから神の前に出られない」こんなことを言うことこそ罪です。愛するとは赦すこと、赦すということは、自分も赦さなくてははいけないし、相手も赦さなくてははいけないのです。自分に向けるべきものを相手に向けたり、相手に向けるものを自分に向けたりしないでください。私たち自身が変わる必要があります。(箴19：20～23) 人が求めているものは変らない愛です。変らない愛のところで初めて変化が起こるのです。変らない愛を表していますか。イエス様は変わりません。イエス様の似姿にならないといけないうのは「変らない」という部分です。愛すると決めたら愛してください。神様の似姿に近づいていきましょう。(要約者：岩崎祥彦)